

礼拝

令和8年4月9日
0号



建学の精神・校訓を生活の中心に 明るく正しく仲よい学校生活を送ろう

本学園の源は、浄土宗僧侶である獅子谷佛定(したにぼつじょう)上人を中心に一九〇四年(明治三七年)に設立された「私立 高等家政女学校」です。獅子谷上人が九州地方を訪れた際、「最近の世の中は、個人主義や無神論が横行し、個人の独立を求める余り家庭を崩壊し信仰を失う者が多い。このような状況では我が国古来の良風美俗も跡を絶ち、日本の将来は誠に危うい。」との言葉に感銘を受け、学校設立を決意されました。当時と現在で社会の様子は異なりますが、今の世に生きる人々の「自分さえよければ」「今さえよければ」「自分は正しいが他は間違っている」というような考え方や言動を見るにつけ、獅子谷上人の決意は現在に通じるものがあります。つまり本校の建学の精神は現代に通じる、最も単純で最も大切な、「人としての生き方の根幹」を示しているといえるのです。

本校の宗教情操教育は、建学の精神・校訓に基づいて、人間尊重の精神と生命に対する尊崇の思いを持てる人へと育成することが目標です。宗教礼拝や宗教行事を通して学んだ法正(しんせい)を、学校生活や家庭生活、そしてあらゆる社会生活の中に生かせることが、最も大切な実践になります。さらに、宗教情操教育で学んだ生き方を社会で発信できる人になってほしいと願っています。

◎三宝帰依(さんぼうきえ)
三つの宝(仏、法、僧)を大切にす。

◎仏(ぼつ)さま、無量寿・無量光(むりょうじゆ・むりょうくわう)明るいこと

◎法(ほふ)さまのみ教え(みけし)正(ただ)しいこと

◎僧(そう)さまのみ教えを世に伝える仲間
仲よいこと

◎校訓を中心とした生活を送る

◎謙虚にして真理探究 帰依(きい)仏(ぼつ)明(あきら)るく

◎誠実にして精進努力 帰依(きい)法(ほふ)正(ただ)しく

◎親切にして相互協同 帰依(きい)僧(そう)仲(な)良く

仏教とは、「悪いことはしない」「善いことを進んでする」「他のために尽くす」ことです。そのため、常に自分の言動が周囲を明るくすることなのか・正しい関係を築けることなのか・仲よくなることなのかを振り返り、自分をコントロールできる自律・自立した人へと成長してください。

宗教礼拝とは

宗教礼拝は、阿弥陀さまのみ前で礼拝をすることによって、大宇宙の法則の中で生かされている自分に気づき(智慧)、仏さまのみ光(命ある全てのものがしあわせに生きられるように平等に照らしてください)と光(慈悲)を頂き、よりよい人格の形成を目標とする時間です。

行道とは

各教室前の廊下に静かに整列し、合掌の姿で瑠璃殿に向かうことです。瑠璃殿へ着くまでに心を静め、礼拝を受ける環境を整えていきます。周囲のことに心を奪われず、自分の進む先をしっかりと見つめましょう。

写経とは

お経を写すことです。「お経」とは仏さまのことばであり、正しい教えのことです。心をこめて、一文字ずつ丁寧に写すことは、仏さまの教えを心で受け止めることです。心を集中させると、自然に他のことを考えなくなり、素直に教えを受け止める時間をつくることができます。

法話とは

仏さまの教えを、私達にわかる言葉でお話することです。話を聞く姿勢は「聞こえてくる声をただ聞く」ような受け止め方では、その時間を何となく終わらせてしまいます。礼拝での法話、朝礼での校長先生の話、授業や学級での先生方の話にも、それぞれめあてがありますから、それを理解して自分の中に浸透させていきましょう。

感想文とは

その日の宗教礼拝での法話を聞いて、感じたことや考えたことを自分の言葉でまとめる時間です。思いを文字で表現することは、自分の考えを見えるようにする作業であり、考えが整理されていきます。日々の生活に照らしあわせて考えるのも良いことだと思います。わずかな時間ですが、自分と向き合う時間とし、内面から成長していく時間になればと願っています。